



世界を魅了する文化圏をめざして

はなやか関西～文化首都年～

【お問い合わせ先】
国土交通省 近畿地方整備局
近畿圏広域地方計画推進室
【TEL】06-6942-1141(代表)

日本文化の源泉 関西

関西は古くから都がおかれ、日本の伝統的な歴史・文化・産業の拠点として発展してきました。江戸時代になり政治の中心は江戸へ移ったものの、京と大坂を中心とする「上方」は文化・経済の先進地域として繁栄しました。日本文化の中心として活発な文化活動が行われた関西には、数多くの伝統芸能や文化財が継承されています。その数は、国宝・重要文化財の約6割、人間国宝の約3割、日本の世界文化遺産の13件中5件にのぼります。

このように、関西は日本の文化の源泉であり、今も「本物」の文化を様々な形で継承し、その発展をリードし続けている地域です。

世界に誇る文化資源の 集積を持つ関西

日本における世界文化遺産(2014.2現在)



古都京都の文化財(京都府、滋賀県)



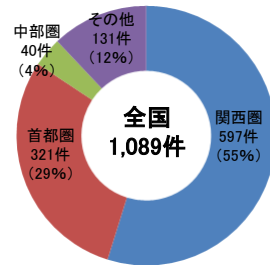
法隆寺地域の仏教建造物(奈良県)



古都奈良の文化財(奈良県)



姫路城(兵庫県)



各地域における日本の国宝数



紀伊山地の霊場と参詣道(奈良県、和歌山県、三重県)

伝統と革新が融合する関西



歴史的街並みとイルミネーションの共演(なら燈花会・奈良県)



和傘の技術を活用したデザイン照明(日吉屋「古都里」・京都府)



環境をテーマとした新たな芸能(山本能楽堂「水の輪」・大阪府)



伝統食材を使った新たな料理(地場産猪肉と長寿柿の赤ワイン煮込)

世界を魅了する文化圏をめざす はなやか関西～文化首都年～

「はなやか関西～文化首都年～」の概要

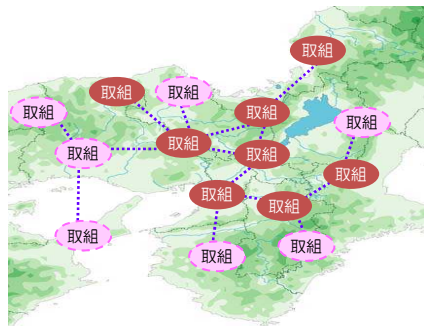
「はなやか関西～文化首都年～」は、関西が日本らしさを象徴し、日本を牽引する「文化首都圏」となることを目指し、関西が一丸となり進めている取組です。関西を源泉とする「本物」を毎年度取り上げ、日本独自の文化を継承・発展させるとともに、各地域の取組を繋ぎ、国内外へ発信しています。

※「はなやか関西～文化首都年～」は、近畿圏広域地方計画の主要プロジェクト「文化首都圏プロジェクト」を推進する取組です。

関係機関を挙げて、各地の「本物」を活かした取組を応援

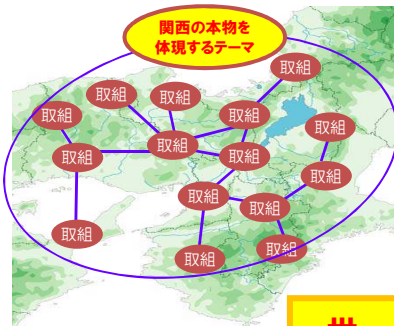
<現状>

各地に「本物」を活かした取組が点在するが、十分知られていない等の状況



<展開イメージ>

テーマに基づく「本物」を活かした多種多様な取組の促進・関西でまとまった発信力向上



文化首都の形成に向けた取組（毎年1テーマを設定）

①文化を継承・発展させる
(ものづくり、ひとづくり、まちづくり)

②関西の地域の
取組をつなぐ

③関西が一丸となって
発信する

『オール関西』で支援

府県

福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、徳島県、鳥取県

指定都市

京都市、大阪市、堺市、神戸市

経済団体等

(社)関西経済連合会、関西広域機構、(社)関西経済同友会、大阪商工会議所、京都商工会議所、堺商工会議所、神戸商工会議所

国

農林水産省近畿農政局、経済産業省近畿経済産業局、国土交通省近畿運輸局、環境省近畿地方環境事務所、国土交通省近畿地方整備局

世界を魅了する文化首都圏の形成

「はなやか関西～文化首都年～」のテーマ

2011年度テーマ「茶の文化」

日本の生活に深く根ざしている『茶の文化』は、千利休が大成した「茶道」をはじめ、茶器や茶菓子、茶花などその多くが関西にルーツを持ちます。茶の文化は、現在の日本の「おもてなし」の文化の起点と言えます。

「はなやか関西～文化首都年」の初年度となる2011年度は「茶の文化」をテーマに、関連する取組団体による実行委員会を組成し、総合イベント、フォーラム、非公開茶室見学、スタブラー等取組を実施しました。



非公開茶室の見学



大阪城を舞台とした総合イベント

2012年度テーマ「人形浄瑠璃」

2012年度の「はなやか関西～文化首都年」のテーマは「人形浄瑠璃」です。人形浄瑠璃は、関西発祥の操り人形を使った日本の伝統的な芸能です。日本の伝統芸能として同じく著名な「歌舞伎」にも大きな影響を与えています。

また、人形浄瑠璃を洗練・発展させた「文楽」は、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。



西宮公演



犬飼農村舞台ツアー

2013年度テーマ「関西の食文化」

日本人の美意識や生活習慣にも影響を及ぼしてきた「関西の食文化」の魅力を歴史の面から紐解き、発信していくにあたり、公式ガイドブックの配付、ホームページ・フェイスブックへの掲載、学生企画ツアーの実施、シンポジウムの開催等を行いました。



公式ガイドブック



なにわ伝統野菜収穫体験



シンポジウム